京極読書新聞 <第15号>

発行日 平成22年8月1日(日) 京極町生涯学習センター湧学館

7月10日(土) 北海道立文学館出前議庭 「宮沢賢治と北海道・樺太」、願かる!



宮沢賢治の童話「氷河ねずみの毛皮」を縦軸に、さまざまな作品や逸話を通して、賢治の人生をつらぬく自然・宇宙との独特な交感の様子を語っていただきました。また、賢治にとっての「北」(北海道・樺太)が持つ意味を、「あこがれ」と「おそれ」の地と表現された時には会場に感嘆の声があがりました。当日の熱気については、アンケート結果(一部分)をご参照ください。

講師:斉藤征羲(さいとう・まさよし)氏

昭和18年の帯広市生まれ。新聞記者、商社勤務などを経て、平成元年に穂別町町役場に入り、宮沢賢治をモチーフに使ったユニークな町おこしなどで活躍。

詩人としても名高く、詩集「コスモス海岸」で北海道詩人協会賞。現在、宮澤賢治学会理事。最近のご活動としては、ビデオ映画「田んぼdeミュージカル」「いい爺いライダー」の脚本制作、札幌のFM局・三角山放送のパーソナリティなど。

アンケート 「本日の講演の感想をお聞かせください」より (一部分)

- 賢治と北海道との関わりが分かってとてもよかったです。 「未完成の完成」ということばもおもしろい。それにしても、どう して賢治は多くの人に(自分も含めて)こんなに魅力的なので しょうか。
- わからなかったことがわかりやすく聞かせて頂きました。 ありがとうございます。
- 宮沢賢治。私にとって遠い異次元の世界のようなところで生きている人のように感じていたが、お話を聞くことによって、人間味のあふれた身近な存在として興味を持つことができた。これからいろいろな作品に触れていきたいと想った。
- 「宮沢賢治」研究者であり第一人者の「斎藤征義氏」を講師に招いていただきありがとうございました。
- 賢治は子供の頃から良く出てくる名だが深く知ったことはなかった。童話の書出しの賢治らしさを知ることが出来た。 じつくり作品を味わって行きたい。斉藤先生のお話が興味深く聞けた。

原極読書新聞は 毎月1日発行です。

- 風がブランコに乗っている 日常性の感覚 ― 賢治の感覚 風からも雲からもエネルギーを取れ! 天が息をする 風 = 天の呼吸 賢治の宇宙観 人は何故北へ向かうか 私も北へ渡って来ました。
- "銀河鉄道の夜"が好きなのでお話を聞かせて頂きました。 賢治の人となりに触れる事ができ、興味深く聞く事ができました。 未完成は完成なりという言葉が印象に残りました。
- 賢治の文学を、今の年齢になって、ゆっくり、もう一度読んでみようかな? またちがう視点で、感じることができるようになるのではないか?と。新しい期待感、楽しみがある予感がもてるようになりました。ありがとうございました。
- 奥深い宮沢賢治の世界は聞いて楽しかった。
- 私には童話作家のイメージが強かったのですが、今日の 講座で作品にこめられた思想というか理想とするものが、少し だけわかりました。又、北海道とも深いつながりがあり、具体 的なお話でしたので面白かったです。理想を実現されないま ま亡くなっても、作品に残されているんですから。まだまだ他 作品で学びたいところです。大変おもしろく拝聴しました。

京中生に

インタビコ

第3回

平成21年度読書感想文コンクール受賞者 インタビュー第3回。 いよいよ夏休みです! このインタビューを読書感想文を書くときの 参考にしてみてくださいね。

真田桃子さん(2年生)「ひらけ扉」 森口愛理さん(3年生)「一番、一番!真剣勝負」

- いやー、今回も、教えられるまで気がつきませんでした。今回は「クロスカントリー」つながりなんですってね。
- 森口 はい。私も真田さんも「クロスカントリースキー少年団」 です。
- 一一こんなことって、あるんだねえ。第2回の「剣道部」の時もそうですけれど、本当にクラブ活動とか学年のつながりとか、そういう風には計算していないんですよ。できるだけシンプルに読書感想文コンクール作品集を読んで、取り上げられた本や感想文の内容で組み合わせを考えているだけなんですけれどね。
- 真田 なんとなく、本の好みや感じ方が似てくるのですかね (笑)
- でも、こうなったら、やはり「クロスカントリー競技」のこと、 聞きたいです。森口さんの感想文で、夏場もトレーニング がある、けっこうきついスポーツだということを知りました けれど。
- 森口 週6日の練習です。ローラースキーを使ったり、筋トレ とか。
- 真田 あと、基本の走り込みとか…
- 森口さんの感想文は、大相撲の朝青龍と自分のやってるクロスカントリーという対比がいいんですね。特に今は大相撲がものすごい世間のバッシングを受けている時でしょう。そういう時でも、世相に媚びずに「私は朝青龍の大ファン」を言うのは度胸あると思う。というより、真の意味で、頭がいいと感じました。
- 森口 本を読んで、こんなに号泣したのは初めてでした。泣いた あと、心にパワーが満ちあふれていくような気がしました。 本を読む前と読んだ後では、クロカンに対する気持ちす べてが、変わりました。

- ――この本はそうなんですよ。本が出版されたのが2006年 の1月。朝青龍が地方巡業さぼってモンゴルでサッカー やってて問題になるのが、その年の7月です。そこから ケチがつき始めるのですが、この本は、その直前、強くて 強くてしょうがない絶頂期の朝青龍の言葉なんです。
- 森口 16歳で日本に来日。明徳義塾高校の厳しい稽古。異国の地の慣れない言葉や習慣。親に会えない寂しさ。いろんな壁を乗り越えて、ここまで頑張ってきたことにウソはないと思うのです。
- ―――真田さんの感想文にも、同じように、世間並みの感想に 安易に合わせようとしない、シャープさがありますね。 感想文は、「脳障害という重い病気をかかえた子ども」 =「かわいそう」という図式を疑うところから始まります。
- 真田 本に載っていた写真を見て、私の気持ちは変わったのです。とても幸せそうに笑っていて、見ている私までもが 笑顔になるほどの写真でした。



▲ 京極中学校仮校舎内の図書コーナー

毎日の辛いリハビリでは泣いているのに、どうしてこんな 笑顔が生まれてくるのだろうと考えたのが、この感想文 を書くことになるきっかけです。

----すると、いろんなものが見えてくる。

真田 そうです。この日木流奈(ひき・るな)くんの隣には、お母さんがいて、やっぱりお母さんも楽しそうに笑っている。お父さんも笑っている。私には、流奈くんが「家族」の支えの大切さを自然に教えてくれているように思えます。「家族」や「命」や「生きる」ということの意味を、心の扉のひらき方を、自然に無理なく教えてくれる大切な本です。

-----そうですねえ。「家族」か… そういえば、今、相撲の世 界で大激震を引き起こしている「野球賭博」問題。 事件 の捜査であらわれてくるのは日本人力士ばっかりで、外国人力士が全然出てこないのは、外国人力士には故郷(故国)の家族があるからなんだと説明する人がいますね。家族に仕送りするために、もっともっと強くなって出世して金を稼がなければならないから、博打で遊んでる金なんかないんだ、と。

森口 日本人は豊かになりすぎたのでしょうか。

真田 ハングリー精神がなくなったんでしょうか。

――どちらの本も、豊かになった今こそ、必要な本かもしれませんね。

京中生に インタビコ-第3回



「ひらけ扉」 日木流奈著 / 大和出版

「一番、一番!真剣勝負」 朝青龍明徳著 /日本放送出版協会

「バッテリー」 あさのあつこ著 / 教育画劇

「豚の死なない日」 ロバート・ニュートン・ペック著 / 白水社



澤向彩実さん(1年生)「バッテリー」 阿部利基くん(3年生)「豚の死なない日」

京中生に インタビコ-第3回

――「豚の死なない日」。最初は、なんてダサいタイトルなんだろうと思って読み始めたのですけれど、読み終わった時には、この「(今日は)豚の死なない日」という言葉の重さにちょっと感じ入ってしまいましたよ。いやー、いい本、読んだ。

阿部 やはり、このタイトルしかないですよね。

-----読書感想文がなかったら、たぶん知らないで終わっていたんでしょうね。ところで、こういうセンスのいい本、どういうきっかけで見つけたのでしょう? 誰かに紹介されたのですか?

阿部 いや、この本は、湧学館で見つけた本です。読書感想 文向けの本を探していて、見つけました。

―――そうですか、湧学館なんですか。それはうれしい。澤向 さんも、小学生の頃から湧学館をいつも利用してくれ て、本当にありがとうございます。

澤向 私の「バッテリー」感想文も、湧学館です。

―――そうですか。なんか、こうやって自然に「京極町の本棚」 になって行くのがいちばんうれしいです。でも、今年の京 極中学校はすごいですよね。蔵書5万冊の付属図書館 を持つスーパー中学生だよ(笑)、あなたたちは。

澤向 こういう体験(来年の新校舎完成まで一年間湧学館の 隣に仮設校舎)している中学生って、そうはいないでしょ うね。

―――そういえば、「豚の死なない日」の少年・ロバートも13歳の中歳。原田巧と永倉豪の「バッテリー」コンビも13歳の中学1年生。 奇しくも、アメリカと日本の13歳対決となってしまいましたね。 やはり、「13歳」にはなにか意味があるのかなあ。

阿部 子ども時代との別れみたいな…

一一父の葬式の日、父の友人だったタナーさんが ロバートに向かって、「(これからは)友だちどうし だ。名字でなく名前で呼びあおうじゃないか」という 場面がありますね。これって、ロバートのことを、ペック家 の一人前の男として認めてくれたということだと思うんです。

阿部 そうですね。

ロバートもしっかりタナーさんの言葉の意味がわかっていますね。でも、本当の一人前になるためには、もっともっと心も身体も大きくならなければならないということも、ロバートを見ればありありとわかってしまうというのも、やっぱり13歳なんだなぁ。

澤向 天才ピッチャーだからなのか、自分の力だけを信じて行動する巧には、はらはらしました。そういう意味では、中学1年のスタートの時に、永倉豪というキャッチャーと出会えたことはとてもよかったと思います。

―――もうひとつ、「バッテリー」には、おっ!と思うところがありました。それは、弟の青波(せいは)。物語の最後で、病気で身体も弱かったはずの弟がいつの間にか野球を通して変化してきていることに巧が気づいた時の場面がよかったなあ。最後に、最近読んでいる本とか、記憶に残っている本がありましたら、おしえてください。

澤向 最近よく読んだ本は、山田悠介の「リアル鬼ごっこ」で す。殺人という感じでこわいけど、おもしろい本です。

阿部 えっと、ぼくは小学生の時に「はだしのゲン」を読んでいました。最初はおもしろくで読んでいたんですが、だんだん戦争のつらさがわかってきて、とてもよかったです。みんなにも、ぜひ読んでもらいたいですね。

京極から文学散歩 第4回は 京極読書新聞 第16号に掲載予定です

発行

京極町生涯学習センター湧学館 〒044-0101 京極町字京極158番地1 TEL 0136-42-2700(代表) FAX 0136-42-2032 E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください http://lib-kyogoku.cubet.com/

